

全国学力・学習状況調査について

1. 調査の目的

- 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

2. 調査実施日

平成30年4月17日（火）

3. 調査の対象

泉佐野市立末広小学校 第6学年，全児童

実施児童数（ 70 人）

4. 調査の内容

(1) 学力に関する調査

ア 教科は、国語及び算数及び理科。

イ 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、主として知識・技能に関する内容（A問題）と、それらを活用する力などに関する内容（B問題）とする。

ウ 出題形式については、選択式及び短答式に加え、記述式の問題とする。

(2) 学習状況に関する調査

調査する学年の児童を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関するアンケート調査（以下「児童アンケート調査」という。）を実施する。

(3) 学校の取組みに関する調査

調査対象の児童が在籍する学校を対象に、学校における教育条件の整備状況や指導方法等に関するアンケート調査（以下「学校アンケート調査」という。）を実施する。

平成30年度全国学力・学習状況調査の分析（国語）

1. 全体の傾向

「A 区分問題」

- ・平均正答率の全体的な分布状況は、全国とほぼ同じだが、全国と比べ上位層が少なく、中・低位層がやや多く分布している。

平均正答率 (本校 62/泉佐野市 67/大阪府 68/全国 70.7)

「B 区分問題」

- ・平均正答率の全体的な分布状況は、全国と比べ上位層が少なく、中・低位層が多く分布している。

平均正答率 (本校 44/泉佐野市 51/大阪府 52/全国 54.7)

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

国語 A	特 徴 が み ら れ た 設 問
【書くこと】 ○ 自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成の効果を考える。 2 物語を書くとき構成の工夫の説明として適切なものを選択する。(64. 3/73. 8) 【読むこと】 ○ 登場人物の心情について、情景描写を基に捉える。 4 『くらやみの物語』を読んで心に残ったことを一文を取り上げて説明する際に、その一文が心に残った理由として適切なものを選択する。(65. 7/74. 0)	【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】 ○ 文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く。 5 【春休みの出来事の一部】の中で、…部と――部とのつながりが合っていない文を選択し、正しく書き直す。(25. 7/35. 5) ○ 学年別漢字正答表に示されている漢字を文の中で正しく使うことに課題がある。 8 文の中で漢字を使う。 (ア) せい造 (61. 4/73. 4) (ウ) しょう毒 (65. 7/82. 2) (エ) かん理 (51. 4/65. 0) (オ) せっ極的 (41. 4/51. 4)

国語B	特 徴 が み ら れ た 設 問
【話すこと・聞くこと】 ○ 話し合いの参加者として、質問の意図を捉える。 1ー【話し合いの様子の一部】における木村さんの発言の意図として、適切なものを選択する。 (71. 4/82. 5) ○ 話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる。 1三これから言葉をどのように使っていきたいかについて、北川さん、小池さんのいずれかの意見を取り上げ、を書く。 (21. 4/33. 8)	【書くこと】 ○ 目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考える。 2ー「かみかみあえ」についての【おすすめする文章】の最初の部分にのように書いた理由として適切なものを選択する。(44. 3/57. 6) 【書くこと・読むこと】 ○ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む。 3二【伝記「湯川秀樹」の一部】を読んで、【ノートの一部】 最も心がひかれた一文とその理由の文章のに入る内容を書く。 (32. 9/52. 3)

平成30年度全国学力・学習状況調査の分析（算数）

1. 全体の傾向

「A区分問題」

・平均正答率の全体的な分布状況は、全国とほぼ同じだが、全国と比べ中位層が、やや多く分布している。

平均正答率（本校 57／泉佐野市 62／大阪府 63／全国 63.5）

「B区分問題」

・平均正答率の全体的な分布状況は、全国と比べ上位層がかなり少なく、中・低位層が均一的に分布している。

平均正答率（本校 46／泉佐野市 48／大阪府 51／全国 51.5）

2. 学力状況調査より（本校正答率／全国正答率）

算数A	特徴がみられた設問
【量と測定】 ○ 単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味を理解している。 4（2）ウとエの二つのシートの混み具合を比べる式の意味について、正しいものを選ぶ。 (34.3/50.1)	【数量関係】 ○ 百分率を求めることができる。 8 200人のうち80人が小学生のとき、小学生の人数は全体の人数の何%かを選ぶ。 (28.6/52.9) ○ 折れ線グラフから変化の特徴を読み取ることができる。 9 示された事柄が両方当てはまるグラフを選ぶ。 (44.3/63.6)

算数B	特徴がみられた設問
【量と測定】【図形】 ○ 図形の構成要素や性質を基に、集まった角の大きさの和が360°になっていることを記述できる。 1（1）一つの点の周りに集まった角の大きさの和が360°になっていることを、着目した図形とその角の大きさを基に書く。 (40.0/48.2) 【数量関係】 ○ 棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを、適切に判断することができる。 3（1）一つの事柄について表した棒グラフと帯グラフから読み取ることができることをまとめた文章に当てはまるものを選ぶ。 (15.7/23.9)	【数と計算】 ○ 折り紙の軸の色の規則性を解釈し、それを基に条件に合う色を判断し、それを基に条件に合う色を判断することができる。 8（2）4色を順に繰り返してつなげ、輪かざり1本を作ったときの、30個目の折り紙の輪の色を選ぶ。 (50.0/66.5)

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
算数の勉強は好きですか。	64.2	64.0		0.2
算数の勉強は大切だと思いますか。	94.3	92.1		2.2
算数の授業内容はよく分かりますか。	78.5	83.4		4.9
算数の授業で新しい問題に出会った時、それを解いてみたいと思いますか。	71.4	74.3		2.9
算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか。	74.3	78.4		4.1
算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。	57.1	64.4	◇	7.3
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。	94.3	90.3		4
算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか。	80.0	78.5		1.5
算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか。	72.9	80.4	◇	7.5
算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか。	78.5	85.8	◇	7.3
今回の算数の問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありましたが、どのように解答しましたか。(最後まで努力)	64.3	70.6	◇	6.3
調査問題の解答時間は十分でしたか。(算数 A)	68.5	80.3	○	11.8
調査問題の解答時間は十分でしたか。(算数 B)	62.9	66.0		3.1

○「算数の勉強は大切だと思いますか。」という項目で、児童の算数の勉強に対する興味・関心が高い傾向にあることが分かる。
(H29 91.2%, H30 94.3%)

○「今回の算数の問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありましたが、どのように解答しましたか」という項目では、「最後まで解答を書こうと努力した」と答えた児童の回答率より、今回の問題に前向きに取り組んだことがうかがえる。
(H29 48.5% H30 64.3%)

○「調査問題の解答時間は十分でしたか(算数 A)」という項目では、「時間が余った」「ちょうどよかった」と答えた児童が全国は 80.31%に対し、本校 68.5%と 11.8%の差がある。様々な分野から出題される問題を、時間内に、数理的に処理する技能を身に付ける必要がある。

○「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」の項目より、日常の事象を数理的に捉え、よりよく問題解決しようとする態度、算数で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養う必要がある。

平成30年度全国学力・学習状況調査の分析（理科）

1. 全体の傾向

「知識に関する問題」

- ・平均正答率の全体的な分布状況は、全国と比べ上位層が少なく、中位層が多く分布している。

平均正答率（本校 74／泉佐野市 77／大阪府 75／全国 78.0）

「活用に関する問題」

- ・平均正答率の全体的な分布状況は、全国と比べ上位層が少なく、中位層が多く分布している。

平均正答率（本校 48／泉佐野市 53／大阪府 53／全国 56.2）

2. 学力状況調査より（本校正答率／全国正答率）

理科「知識」	特 徴 が み ら れ た 設 問
【生命】 ○ 骨と骨のつなぎ目について、科学的な言葉や概念を理解している。 1（3）腕を曲げることのできる骨と骨のつなぎ目を表す言葉を書く。 (68.6/79.4)	【地球】 ○ 堆積作用について、科学的な言葉や概念を理解している。 2（1）流されてきた土や石を積もらせる水の働きを表す言葉を選ぶ。 (85.7/83.6)

理科「活用」	特 徴 が み ら れ た 設 問
【地球】 ○ 土地の浸食について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想できる。 2（2）流れる水の働きによる土地の浸食について自分の考えと異なる他者の予想を基に、斜面に水を流したときの立てた棒の様子を選ぶ。 (40.0/55.4) ○ より妥当な考えをつくりだすために、複数の情報を関係付けながら、分析して考察できる。 2（4）上流の雲の様子や雨の降っている所と下流側の川の水位の変化から、上流側の天気と下流側の水位の関係について言えることを選ぶ。 (42.9/59.8)	【エネルギー】 ○ 電流の流れ方について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想できる 3（2）回路を流れる電流の流れ方について、自分の考えと異なる他者の予想を基に、検流計の針の向きと目盛りを選ぶ。 (31.4/47.7)

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
理科の勉強は好きですか。	77.1	83.5	◇	6.4
理科の勉強は大切だと思いますか。	81.5	85.4		3.9
理科の授業の内容はよく分かりますか。	84.3	89.4	◇	5.1
自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがありますか。	82.8	87.0		4.2
理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。	58.6	64.7	◇	6.1
理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。	74.3	72.9		1.4
将来、理科や科学技術に関する職業に就きたいと思いますか。	27.1	26.1		1.0
理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしていますか。	47.1	54.5	◇	7.4
観察や実験を行うことは好きですか。	94.3	89.8		4.5
理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか	68.6	75.2	◇	6.6
理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか。	57.1	68.1	○	11.0
5年生のとき、理科の授業がおもしろいと思いましたか。	87.2	87.5		0.3
今回の理科の問題について、解答を文章などで書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか。(最後まで努力)	68.6	77.3	◇	8.7
調査問題の解答時間は十分でしたか。	81.4	90.1	◇	8.7

○「理科の勉強は好きですか」「理科の勉強は大切だと思いますか」の項目では、全国と比べ本校は下回っているものの、理科に対する興味・関心が高く、「理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の項目の74.3%の回答率からも、理科の必要性も感じているようだ。

○「観察や実験を行うことは好きですか」の項目では、全国の結果を上回り、本校6年生の94.3%の児童が、観察・実験を行うことが好きだと回答している。しかしその反面、「自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか」「理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか」の項目で当てはまると答えた児童が、実験が好きと答えた児童94.3%より大幅に少ない。児童自ら課題を発見し、実験・観察を主体的に行っていけるような、学習活動の工夫が必要である。

○「今回の理科の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、どのように解答しましたか」の項目で「書く問題を解答しなかった、途中であきらめてしまった」と答えた児童が、31.4%であった。与えられた時間内に、文章を読み、集中力を持続させ、身に付けた知識を出し切れるよう、普段の学習から様々な問題に挑戦する必要がある。

平成30年度全国学力・学習状況調査の分析（児童質問紙より）

本校の子どもたちの意識調査を、質問に対して4択で選ぶものは、選択肢1、2と3、4はそれぞれ同じ傾向と捉える。（例えば、1. 当てはまる 2. どちらかといえば当てはまる 3. どちらかといえば当てはまらない 4. 当てはまらない）

また、それ以外の質問は特徴的な事柄を取り出し、それらを全国と比較している。

下記の表には全国と比較して5ポイント以上差のあるものの中で、特徴的な項目を列挙した。さらに下線部に関しては10ポイント以上の差のあるものを示している。

設問内容種類別の全国との比較で差が大きく特徴のある項目

設問内容種別	本校の状況	本 校 < 本 校 回 答 率 / 全 国 回 答 率 >
【家庭生活の様子】	早寝・早起き・朝食などの基本的な生活習慣は、全国を下回っている。	○毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。 $\lt \underline{64.3/77.0} \gt$ ○毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。 $\lt \underline{72.8/88.8} \gt$ ○毎日、朝食を食べていますか。 $\lt \underline{88.6/94.5} \gt$ ○今住んでいる地域の行事に参加していますか。 $\lt \underline{27.1/72.9} \gt$
【家庭学習の様子】	宿題はするものの、自ら進んで、学習の計画を立て、予習復習など、取り組んでいない。読書をすすめる児童が少ない。	○家で、学校の授業の予習・復習をしていますか $\lt \underline{40.0/62.6} \gt$ ○家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習していますか。 $\lt \underline{41.4/69.9} \gt$ ○新聞を読んでいますか。 $\lt \underline{10.0/19.9} \gt$ ○学校の授業時間以外に、普段（月曜日から日曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。 （30分以上） $\lt \underline{32.9/41.1} \gt$
【学校での学習の様子】	自分たちで課題を見つけ調べて発表する学習や、話し合う、意見をまとめる活動を、もっと積極的に取り入れる必要がある。	○学校のきまりを守っていますか。 $\lt \underline{79.4/92.6} \gt$ ○5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか。 $\lt \underline{45.7/61.6} \gt$ ○学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。 $\lt \underline{67.1/77.7} \gt$

本校の取組

◎これまでの取組

(1) 研究主題と研究体制

本校では昨年度より、自分の考えや意見を伝える力を育むために、国語を中心とした「話すこと・聞くこと」を研究主題とし、相手に自分の考えを伝える力を育む授業づくりを進めている。ペア学習やグループ学習の場を積極的に設け、発表の型（まず・つぎに・だから）を示し、一人ひとり発表カードをもとに自分の考えを発表している。また、「声のものさし」を提示し、ペアで話す時、全体で発表する時等、場に応じた声の大きさを話せるよう取り組んでいる。

(2) 学習規律の確立 「学びをつくる5つのとびら」

学習に対する姿勢のルールである「学びをつくる5つのとびら」に学校全体で取り組んでいる。①筆箱の中身をそろえよう②下敷きをしよう③姿勢を正そう④友達の話の聞こえよう⑤自分の考えを発表しよう、の5項目から1つの課題を各月重点目標として各学級に掲示し、学習基準の確立に努めている。そして毎週1回、各学級でふりかえりの時間も設け、全学年が同じルールで学習に向き合えるようにしている。

(3) 少人数・習熟度別指導

3年生から6年生は、学級担任と少人数担当による習熟度別に分割した授業を行い、児童一人ひとりにあった個別学習を行っている。

また、毎日の宿題を必ずするよう「宿題指導」も実施している。つまづきをなくすことをねらいとし、宿題で間違った問題や分からなかった問題を解きたい児童、宿題をしてこなかった児童に対して、少人数担当や学力向上アドバイザーが中心になり、毎日昼休み、算数教室で支援を行っている。

年3回「診断テスト」を実施し、子どもたちの苦手な項目を分析している。そして、朝の10分間の「かがやきタイム」でその弱点を中心にプリント学習を実施している。

(4) 家庭学習の推進

家庭学習を支援するために、年度初めに「家庭学習のすすめ」を全児童に配布し、学期に1回「家庭学習 week」を実施し、積極的に家庭学習に取り組む習慣の確立に努めている。また、宿題以外に自ら取り組んだ学習を自学プリントに書く取組も本年度から行っている。

◎これからの取組

昨年度より研究教科の国語を重点的に取り組んでいるにもかかわらず、今年度の全国学力・学習状況調査の結果では、依然として全国平均との差があり、引き続き研究を深める必要がある。本校の課題を改善するために、以下のことに取り組んでいく。

- 全学年で実施している算数の問題解決型学習はこれからも継続して行っていく。今回の全国学力・学習状況の結果からも、根拠を説明する力や自分の考えを表現する力に課題がある。自分の考えを書く活動とともに、ペア学習やグループ学習を多く取り入れ、児童が自分の考えを表現する機会をより多く設定する必要がある。また国語において書く力を高めるため、ノートのまとめ方や自分の考えを書くことや作文指導等を取り入れた指導を行っていく。
- 少人数・習熟度別指導では基礎基本の定着をはかるとともに、応用的な問題を解くなど、個に応じた習熟度別学習をより効果的に行っていく必要がある。また、つまづいた問題をできないままにしないよう、宿題指導をはじめ、個に応じた学習指導の徹底を引き続き行っていく。
- 自ら家での学習の計画を立て、予習、復習など、進んで行うよう勧めていく。また、教室・図書室の本の環境を整え、読書量を増やすよう、読書活動を継続していく。
- 学習規律や生活面についてのルールを全クラスで同じ基準で守れるよう取り組んでいるものの、「学校のきまりを守っていますか」の質問項目が大変低い。一人ひとりのルールに対する意識をより一層高めていく。
- 各教科の中で、自分たちで課題を見つけ、調べて発表する学習や、話し合う、意見をまとめる活動を、もっと積極的に取り入れていく。